

直径1mmのレーザー治療器の開発

H22補正

日本原子力研究開発機構、ファイバテック、エーテック、
東京医科大学、奈良県立医科大学

狭い場所に発症する癌が増えている

- 肺癌は全癌死の第1位(2008年の統計)。男性の肺癌の40%、女性の肺癌の70%以上を占めている末梢型肺癌にQOLを損ねない『光線力学的治療(PDT)』は適応できない。
- 子宮体癌は毎年増加の一途。若年層の子宮摘出患者が著しく増加。

世界初の超極細レーザー治療器を目指して

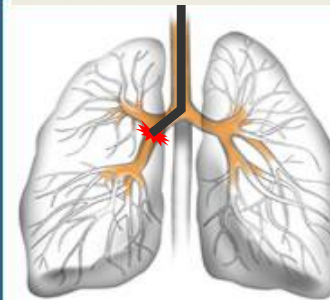
- 原子力の“知”を活かし、外径1mmでレーザー治療と観察を同時に可能にし、体内のあらゆる狭隘部にアクセスできる低侵襲レーザー治療器を実現。
- 低侵襲で、多くの医療領域に応用展開可能。

新しい“知”を活かした事業展開

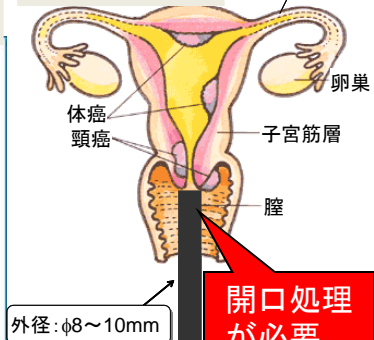
文部科学省・平成24年度『大学発新産業創出拠点プロジェクト』にて、当該機器の事業化に対する支援が採択。原子力機構発ベンチャー企業(新会社)設立を目指すと共に、大学・関連企業及び学会と連携し、事業化・薬事承認取得に向けた取り組みを実施中。

【従来の癌治療】

PDT治療の適用箇所
(現在、中心型肺癌のみ)



子宮摘出が主



外径: φ8~10mm

開口処理
が必要